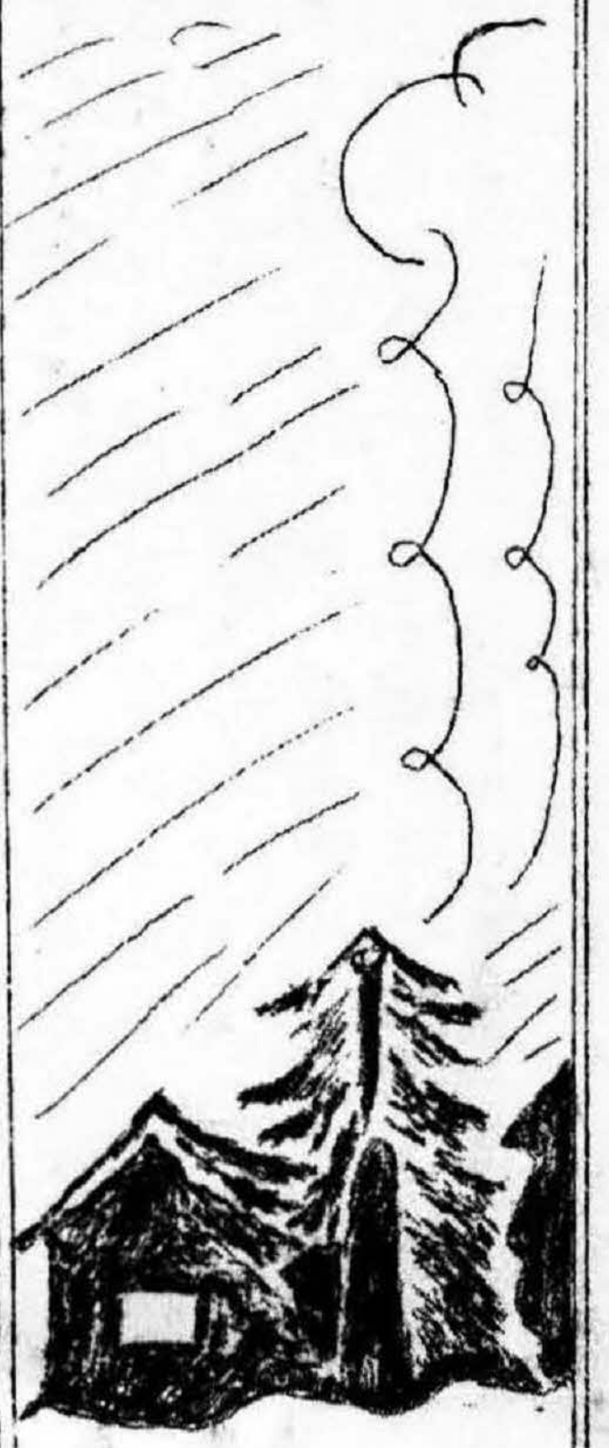
# 會報



第三年第四号

## 秋川を遡って

僕の学生時代だった。確か、とん方やんや九郎ちやんも居た様に思って居る。五日市町で下車して少さい流れであるが秋川の辺でぶらぶらした時があつた様だ。

その時の印象が非常に美しいものとして僕の胸に残って居た。さゝやかな流れであるがあの物静かな、のんびりとした五日市町をめぐって多摩川へ流れ込む様が何んとも云へない位嬉しい。

どんよりと曇った昨日ではあったが大岳山を中心として近所の山々がとても美しい緑色に包れて居た。数人の連れがあったので太沢村迄自動車を一台借切った。

秋川の谷は川が少さい丈けに頗る小規模のものであるがこんな美しい感じを與へる谷は珍しい。大沢村からは秋川の本流と別れて北西に向って大岳山と御前山の間にある鋸山に側に出る途がある。谷道をつのた処が大沢峠と呼ばれて居る。此の辺は山躑躅や山吹の花が沢山咲きゝ乱れて居る。浸々静かな山旅と云ふ感じがする。大沢村から一寸行くと神ヤ岩（カノイワ）と称して巨岩身に迫る処がある、是れは土地の人が都の人を呼ぶ為め盛んに宣傳して居る処であるが少しも感ぢの出ないつまらぬ処である。

大沢峠は一寸変な峠である。峠附近は尾根が狭せて而も附近の標高が同一である為か峠の上のゆったりとした気分が全然ないそしてすぐ目の下に多摩川が見える。大岳山の方は霧が多くて見えないが大い石、鷹ノ巣、川乗山方面がとても奇麗に見える。熊さんが雲取山から日原川へと下って来たのは何コだったろうか。其の日原川が泡立って流れて居るのだらう白く見える。鷹ノ巣山やヤッ石だって確か九郎ちやんが下って来て居る筈だ、知って居る山友達が通った跡を見つめて居ると別れた友達の色々の面影が浮んで来る。懐しいものだ。

峠で裏宿の七兵衛そっくりの老人に出會った。脚絆に鞋、油紙に、ひもをつけて首に結びつけて笠をかぶった様子はそっくりである。

此の老人には驚ろいた。鉱石に関してはとても学者はだしの知識を持って居る。

河辺に山と積まれてある灰色の岩片を見てあれ

は秩父を生層の千枚岩だとか、えらい事を云ひ出して皆んなを煙に巻いてしまった。

峠に立った時とても山の様子を詳しく知って居るから土地の古老だなと断定したがどうもそうでもない。どうやら秩父山脈一帯を山から〳〵山えと鉱石を探して歩いて居る鉱山師らしい。齢六十を遂かに超えた様子だのに足の早い事驚くばかり、確かに今様裏宿の七兵衛である。小留浦(ツラ)で別れたが如何にも不思議な人間であった。氷川へ出て来たが氷川もよい処であった。

春の一日東京は大雨だったのに山では餘り降られなかった。楽しい山歩きを一寸御照會迄

（近藤）

## 雪の峠路

（承前）

### 火打峠

今日はラッセル無しに行けるだらといふ希望は、浅貝の宿を出るや否や幻滅の悲哀に変ってしまった。よもすがら降り続いた雪は昨夕五時頃木陣に到着した東京アルコウ會の一行のシュプールを埋めつくして、私達は又もや脛を没する新雪に嘆聲をあげるのだった。十八貫の排雪者が、勇敢に突き進んでゆく。あるかなしかの緩傾斜をかこちながら。火打峠とはいふが、実際は切通といった方が適當かも知れない。登りつめてみると元耀への爽快な滑降の期待は全然裏切られて微な降り配が長々と続いてゐるにすぎなかった。こゝでリュックを肩から卸し、ゲレンデを作ってスキーを楽む。元橋の一軒家には日章旗が朝風に靡ってゐた。そして嬉しいことにはこゝからは郵便配達のシュプールが明に踏まれてゐた。平な雪路は尚もはるばると連ってゐるのだった。

### 二居峠

二居峠を眞正面に仰ぎながら何度目かの晝食をとった。夏ならば二居峠を越さずにゆく此三国街道は、冬期は雪崩の危険をさけるために、皆二居峠にかゝるのである。

二居の人家を過ぎると愈々急坂にさしかゝる。観念して神妙にしールを張る。陽が出てきたので却々暑い。一汗かいて頂上に立った。ふり返れば越えてきた雪の広野路が日もはるけきストレートラインを描いてのびて居る。パラフインを塗り直して〳〵これが僕にとっては甚だいけなかった〳〵降りにかゝると、新雪は思ひの外深く且所々にブッシュを混えてゐたのとパラフインが利きすぎあまりにスピードが出すぎて却って緩緩意の如くならず、忽ち七転八倒の悪戦苦闘を続けた上に、スキ

しを担いて登れる斜面も馬鹿丁寧にシールを張つて登るといふ低脳振を発揮したゝめに、三人の白色テロリストとは遥かに離れてしまつた。発電所裏の直滑降の辺にかゝつて漸く人心地がついたが身心は綿の如く疲労してしまつた。蓋村部落の発電所の二階で一行と御茶を御馳走になり、三俣村さして発足した。歩度は普通なのであるが、疲れてゐるのでともすれば遅れ勝である。三俣村の家並をすぎると、視野は俄然開け、清津の清流を左にのぞみつゝ行つた。午後二時、豫定よりやゝ遅れて八木沢の部落に入る。腹がすいたのでうどん屋を探したがどうしても見付からない。仕方がないので干うどんで我慢したが、冷たく固く、其上汁は苦辛く、さすが悪食樹の一行も避易してしまつた。此用意の出来る間に裏の河原で近チヤンの逆立スキーといふ珍芸があつて、ヤンヤと村の悪童の喝を博したのであつた。苗場山帰りらしいスキーヤーの一隊が通る。我等も軽くなつたリユツクを肩に今日の最後のコース芝原峠にさしかゝつた。

芝原峠の快走

峠路は畑地を右手に見下しながら山腹をゆるく登つていつたが、やがて杉の密林に入ると共に急登となつたので、今度は要領よくスキーを脱いで担ぐ。少年二人、巧な入テムボーゲンで降つてくる。登りは本ンの僅かだつた。峠の頂上は切通風の、堀割の底の様な所だつた。一息入れてゐると、黒田夫妻を始めとして、苗場帰りらしい数隊が後から〳〵と集つてきて、二十人位の大一座になつてしまつた。さつきからチラ〳〵降り出した雪は愈々本降となつて視野は漸く狭くなつた。お互にラツセルを嫌つてかどの隊も出発しさうにない。僕等の一行は最先頭に到着したといふ理由も手傳つて、最先に出発してみると雪は案外に浅く、固く踏まれた根雪の上に薄く一二寸積つてゐる好コンディジヨンだつたし、傾斜は枝無しの、直滑降が快適といふ程度だつたので、実に爽快な降りとなつた。或時は森蔭を、或時は山嘴を、或時は小沢を走り過ぎながら、遥に望んだ湯沢の町は次第に近く低くなつて来るのだつた。夏であつたなら優に一時間半はかゝるだらうと思はれる此四粁にも餘る峠道を、僅か四十分で、疲れた足に転倒の果もなく湯沢の駅に滑り込んだ。

スキー幼稚園の私にとつて、二日間の峠越を、所謂白色テロの頭神達と共に過すことは非常な冒険であり一大決心を必要とするツアーだつた。夫等の人々はよくいたはりながら私をつれて行つてくれた。二居峠の降りは美事な敗北だつたが、芝原峠の降りは此シーズン最後の、最も愉快な、忘

れることのできない快走だった。（完）

（浩一郎）

## Meiner toten Mutter（逝きし母に）Hans Thaler „Ihr Berge" より

小さい時のお母さん!!大変な苦しみでいけれども充分な愛を以て此の世に生んで下さった。そして幼かりし頃を気遣はしげに育んで下さったのだ。

貴とはなく夜となく、貴女は悪戯盛りの子供の大きくなるのに胸を痛めて下さった。どんな時でも一歩〳〵を辛抱強く看護って居て下さった。子供の遊び盛りを打ち壊す様な冷い親心なんかは少しも持って居なさらなかった。不幸な目に遇せまひと貴女はいつも必要以上に心配をして下さった。

お母さん!!　悪戯っ児は今、こんなに大きくなりました、どんなに沢山の危険があった事でせう、けれどもこうして荒っぽい野生の山男になりました。生きて居て下さったら貴女は何んとおっしやるでせう。

お母さん!!　私は何んと感謝していいのでせうか。こうして無事にこんなに大きくなる様にと、貴女はどんなにお胸を痛めた事でせう。

（熊）

## 會計新任御挨拶

抱負あり才能ある金田一郎氏のあとを継いで、愚鈍な私が新に會計事務を執る事になりました。自他共に許す程のだらしない放漫家なので、此の役目に対して人一倍の不安が有ります。諸先輩の懇篤なる御指導を賜度く御願申上ます。早速ながら、昭和六年度及びそれ以前の滞納會費が参拾四円五拾銭未納者数八人に達して居ります。御芳名を記すのは本意でありませんから、胸に覺の有る方は一刻も早くお納め願ひます。整理の都合上、甚だ恐縮して居ります。右、失禮をも顧ず敢て報告致します。私の希望とする所は経営の合理化です。冗費は勿論之を節する必要があります。然し支出を制限するばかりが能でもありません。ちっとやそっとの支出増額は可能です。有意義な使ひみちを求める必要もある筈です。現在支出側で最高額を占めてゐるのは針葉樹會報発行です。これに就いて、もっと費用をかけても仆はないから充実したものにしろと言ふ意見が或る一部に有りました。私は近いうちに、歴代の尊敬すべき幹事と膝首談合して、得る処あらしめたいと思って居ります。斯様に、一定の收支関係の範囲内で、最大限度の活躍を針葉樹會に期待して居る私は不幸にして浅慮短才、能く其任を果すに足りません。斯る上は先輩各位の御鞭撻のみが生ける駑馬を走らせる所以である事に御留意下さい。以て御挨拶に代ます

（■山徳三郎）